



# 理学療法士

**必要な国家資格**

**理学療法士**

## 理学療法士の魅力

病気やけが、加齢や障がいにより、痛みを伴って運動機能が失われたり制限されたりすることは、座る、立つ、歩くといった基本的な動作ができなくなるばかりでなく、動かなくなることによってますます筋力が衰えることになりかねません。そういった人に対して運動機能の維持・改善のために治療をしますが、それらの機能の回復がもたらす大きな喜びをいっしょに分かち合える仕事といえるでしょう。また、理学療法士は医師以外の医療職で「治療」が行える数少ない職種です。ダイレクトに患者さまに接し、回復に直接関わることで、より大きな職務満足につながるでしょう。



## 失われた身体機能回復のプロとして 理学療法士が活躍しています。

理学療法士は、障がいのある人の身体運動機能の改善ばかりでなく、健康なスポーツ選手などが最大の身体能力を発揮できるよう援助するなど、あらゆる「動作」にかかわる分野に携わっています。

理学療法士は、病院・クリニックやリハビリテーションセンターといった医療機関を中心に、保健施設、福祉施設から、健康産業施設、プロのスポーツチームなど医療と健康にかかわる幅広い現場で必要とされています。特に最近では、生活習慣病予防やメタボリックシンドローム

対策など健康維持・予防医療のための運動療法についてもカバーするなど、身体機能障がい回復などの医療現場だけでなく、幅広い場所でその知識と技術が求められています。



### 医療分野

- 病院  
入院用ベッドが20以上ある、診療・治療を行う施設
- リハビリテーションセンター  
総合的にリハビリテーションを行う施設。
- 精神科病院  
精神病床のみをもつ病院。

### 保健・福祉分野

- 介護老人保健施設  
在宅介護が困難な65歳以上の人が利用できる施設。
- 肢体不自由児施設  
手や足などの機能に障がいのある児童を治療しながら、独立自活のための知識を学んだり訓練を行ったりする施設。
- 身体障がい者更生援護施設  
身体障がい者が入所して自立した社会生活を営むための治療・指導・訓練を受けるための施設。
- 訪問看護ステーション  
在宅の寝たきり高齢者などを対象として、家庭で安心して療養生活が送れるように訪問して看護やリハビリテーションを行う施設。
- 精神障がい者生活訓練施設  
精神障がい者を対象に自立生活への支援を行う施設。

### 教育分野

- 特別支援学校  
学校教育とし並行して生活指導や訓練などを行う施設。
- 療育施設  
障がいのある幼児の保育および療育と保護者への養育援助を行う施設。
- 教育現場  
ある一定期間、理学療法士としての経験を積んで、養成校での教員になることができます。

### 健康産業分野

- スポーツ関連施設  
個々のQOL\*を高める目的で体力維持や向上に関わります。
- プロスポーツチーム  
プロ選手と個別に契約をしたり、企業やプロチームから選手の体調管理を任せられます。

\*QOL…クオリティ・オブ・ライフ (Quality of Life)  
患者の生活機能ができるだけ保たれ、人間らしい生活を続けられることを指す。

## 理学療法士のおもな仕事

理学療法士は、「動作」の専門家、フィジカル・セラピスト（身体を治療する人 = Physical Therapist = PT）です。

分かりやすいのなら、日常生活で基本となる動作（座る・立つ・歩くなど）の改善を目指す専門家です。運動機能が低下した人を対象にしていますが、病気・けが・加齢・手術などその原因は問いません。整形外科疾患患者を中心に、最近では糖尿病などの内科疾患患者にも対応しています。関節の動きの改善・拡大、筋力強化、麻痺の回復、痛みの軽減など運動機能に直接働きかける治療法や、水、熱、電気等を利用した物理療法、動作練習、歩行練習などの能力向上を図る運動療法

まで、動作改善に必要な技術と知識で、対象者の日常生活の自立を支える医学的リハビリテーションの専門職といえます。治療や自立支援のために、対象者ひとりひとりについて医学的・社会的視点から身体能力や生活環境等を十分に評価し、それぞれの設定目標に向けた適切なプログラムをつくります。世界から見て立ち後れていた日本の理学療法分野ですが、ここ10年ほどで理学療法士が増加し、医療分野でも注目されています。高齢者の増加している今こそ、確かな知識と技術を持ち、なおかつ、患者さまの気持ちに応えられる、質の高い理学療法士が求められています。

運動療法	関節可動域の改善・拡大や筋力の強化、麻痺の回復、痛みの軽減を促して歩行や動作という運動機能の改善を図ります。また、糖尿病や肥満といった代謝系の疾患の場合には、有酸素運動を取り入れた運動療法の指導も行います。
物理療法	「物理的なエネルギー」で治療します。痛みの緩和やむくみの改善、運動療法の導入時に活用します。おもな治療法に、ホットパックやアイスパックを用いた「温熱療法・寒冷療法」、低周波・マイクロウェーブなどによる「電気療法」、気泡浴などの「水療法」、赤外線・レーザーによる「光線療法」、頸（くび）または腰部を専用の器具で引っ張る「牽引療法」などで、身体能力の回復を図ります。
基本動作訓練	移動、食事、更衣、整容、排泄、入浴などの身の回りのことを行うための「起き上がる」「立ち上がる」「歩く」などの基本動作ができるよう訓練します。
その他	健康な人を対象とした運動機能維持のための指導のほか、運動・動作の専門的知識を活用して、福祉用器具の適用相談や住宅リフォームの相談なども行います。

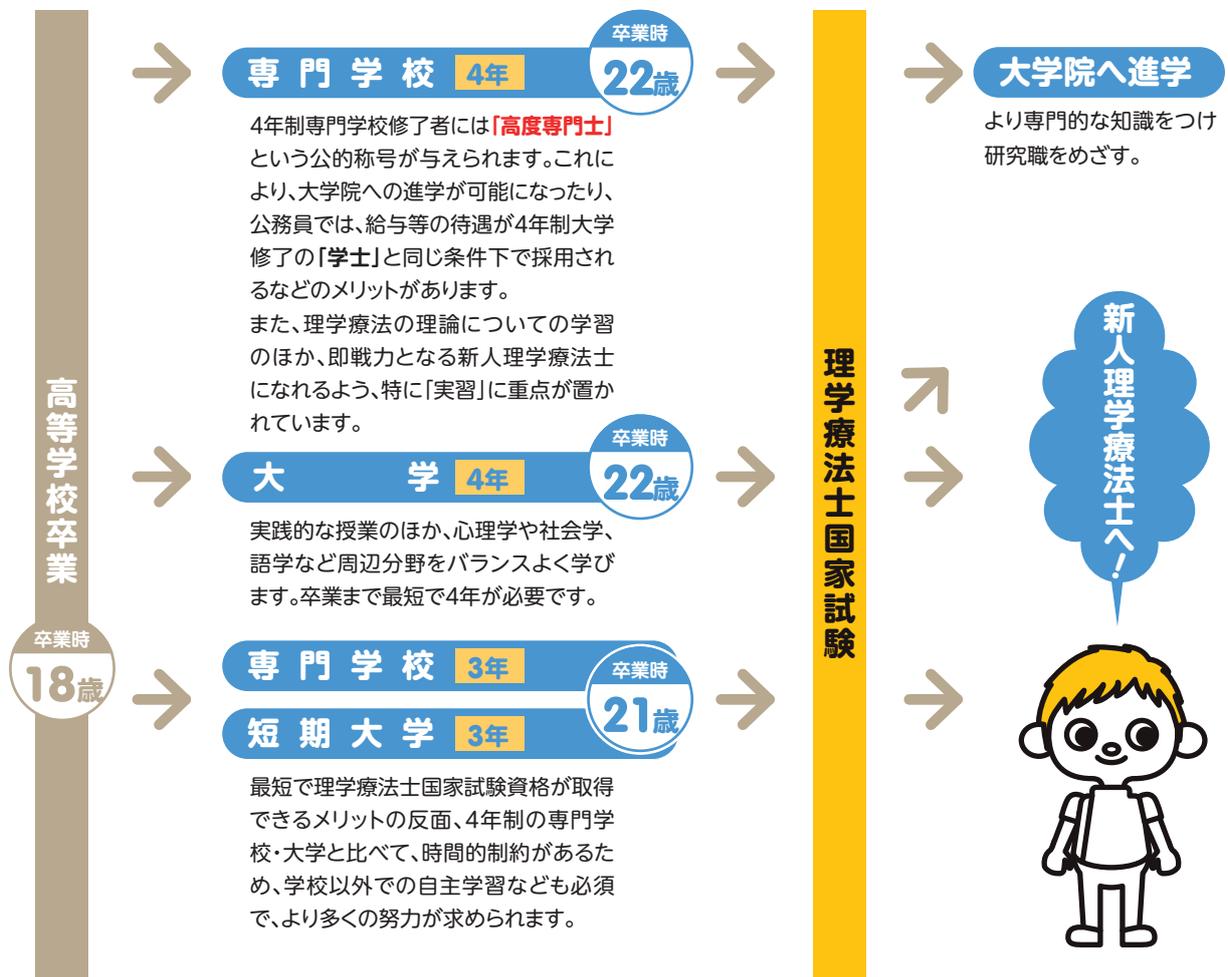
## 勤務体制

医療機関で違いはありますが、だいたい午前9時～午後5時までが勤務時間となり、基本的に夜勤はありません。ただし、急患を受け入れている施設では時間外勤務も発生します。また、カルテの作成、会議、打合せなど、治療とは無関係ですが残業などもあります。休日は、毎週決まっている施設もあれば隔週のところもあります。病院などの医療機関は日曜・祝日は原則休みですが、社会福祉関係（一部医療機関を含む）は日曜・祝日の出勤がある場合もあります。施設や勤務内容により給与面や福利厚生などの待遇は異なりますが、養成校卒業後初任給は平均で約210,000円\*です。

\*平成23年度 ユマニテク医療福祉大学校 理学療法学科に寄せられた求人より

## 理学療法士になるためのルート

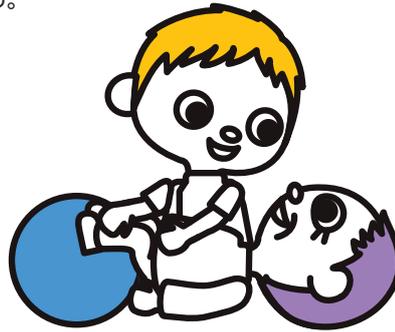
理学療法士の国家試験を受験するには、養成校で3年以上学び、必要な知識と技術を身につける必要があります。高校を卒業後、下記のいずれかのコースで資格を取得します。資格取得後、より専門的な知識を身につける場合、研究職をめざす場合などは大学院もあります（修士課程・博士課程）。すでに作業療法士の資格を持っている人は、養成校で2年以上学べば受験資格が得られます。また、外国の養成校を卒業した場合、外国で理学療法士免許を取得した場合は、所定の手続きを経て厚生労働大臣の認定を受けることで、あらためて日本の養成校に入ることを免除されたり、不足単位のみ取得すればよい場合もあります。



## 理学療法士養成校で学ぶこと

理学療法士は、医師の指示のもとに患者さま一人ひとりの障がいの程度を科学的に検査・測定し、身体機能を評価したうえで、最も効果的な治療法を選択し治療訓練を行います。そのため、理学療法士には、広い医学的知識と確かな技術が求められます。養成校のカリキュラムには、大きく分けて、一般教養科目、専門基礎科目、専門科目、臨床実習の4種類があります。専門科目には実技やグループで課題に取り組む授業もあります。

また、養成校それぞれにも特色がありますので、自分が将来どんな職場で働きたいかを考え、それに合うカリキュラムや実習先を用意しているところを選ぶとよいでしょう。



## 4つのカリキュラム

養成校のカリキュラムには、大きく以下の4つに分けられます。

### 一般教養科目

社会人として、また医療に携わる者として、必要な一般教養科目を学びます。患者さまとのコミュニケーションに欠かせない能力も磨いていきます。

### 専門基礎科目

人体の構造と機能及び心身の発達について学習する科目、疾病と障がいの成り立ち及び回復過程の促進について学習する科目、保健医療福祉とリハビリテーションの理念を学習する科目を学ぶことで、患者さまの疾患や身体障がいを理解します。そして理学療法の基礎となる基本的な知識や理論をしっかり身につけます。

### 専門科目

健康、疾病、障がいなど予防と回復過程に関する専門知識を学ぶと同時に、実践的な実習により理解力・観察力・判断力の素養を習得していきます。

### 臨床実習

病院・施設など実際に理学療法士が働いている現場で、患者さまを通して様々な知識・経験を身につけます。また、普段の講義で学んだ知識がどこまで通用するのか、学んだことをどのように生かすことができるのかを知る絶好の機会であるとともに、先輩から実体験を聞くことができる貴重なチャンスです。

養成校のカリキュラムにより、内容や期間・回数等は様々ですが、一般的には初年度に見学実習（1日～1週間程度）があり、最終学年の前年度に評価実習（3週間程度）があり、最終学年に総合実習（7～8週間程度が2回程度）があります。

## 理学療法士国家試験の合格状況

	受験者数	合格者数	合格率	備考
第47回理学療法士 国家試験合格状況	11,956	9,850	82.4%	一般問題を1問1点(160点満点)、実地問題を1問3点(120点満点)とし、次の合格基準のすべてを満たした者を合格とする。 ●総得点 168点以上/280点 ●実地問題 43点以上/120点
第46回理学療法士 国家試験合格状況	10,475	7,786	74.3%	一般問題を1問1点(157点満点)、実地問題を1問3点(120点満点)とし、次の合格基準のすべてを満たした者を合格とする。 ●総得点 167点以上/277点 ●実地問題 43点以上/120点
第45回理学療法士 国家試験合格状況	9,835	9,112	92.6%	一般問題を1問1点(158点満点)、実地問題を1問3点(120点満点)とし、次の合格基準のすべてを満たした者を合格とする。 ●総得点 167点以上/278点 ●実地問題 43点以上/120点

### コラム・column

rehabilitationという語はre-（再び）とラテン語の形容詞であるhabilis（適した）と-ation（～にすること）からなっている。すなわち、「再び適した状態にすること」を意味する。この場合のhabilisとは「人間たるふさわしい」ということである。そのため、語源から解釈されるリハビリテーションとは人間としてふさわしい権利・資格・尊厳・名誉がなんらかの原因によって傷つけられた人にたいし、その権利・資格・尊厳・名誉などを回復することを意味する。

（リハビリテーションを考える 上田敏 障害者問題双書より）

